

深化の過程



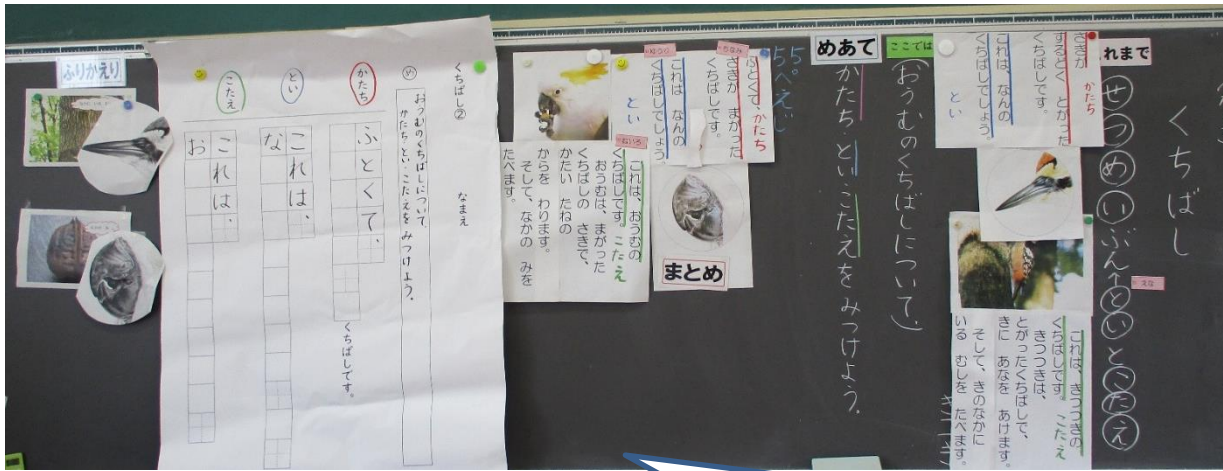
2021.06.30

No.7

☆授業実践報告②

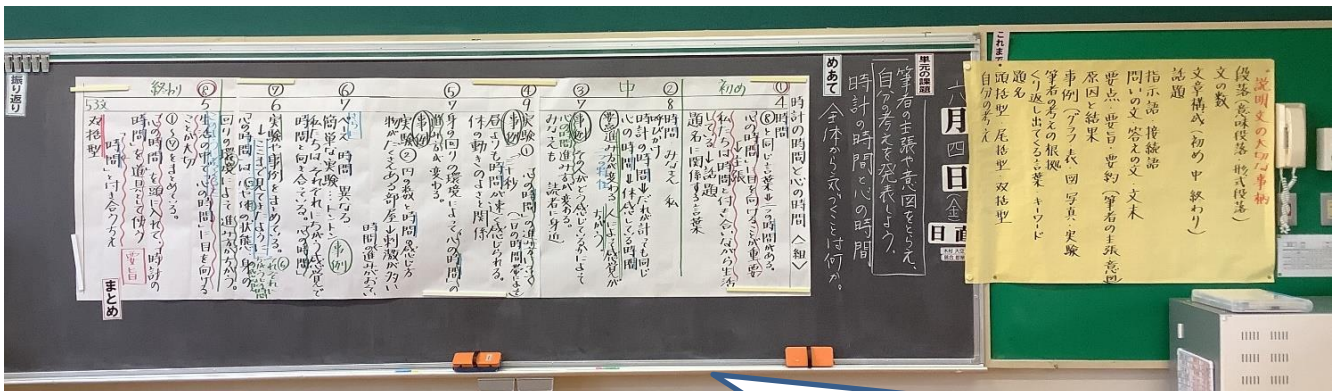
前回に引き続き、今回は、国語部会の協議の様子をお伝えします！

<1年国語「くちばし」篠崎先生>



- 本文から「かたち」「とい」「こたえ」を探し、傍線を引かせる活動は有効であった。また、こうした活動を継続してきたので、本時も活動をスムーズに行うことができた。
- 傍線を引いた後、プリントに記入するのに時間がかかった。
→「かたち」に焦点を絞り、えさとくちばしの形の関係を考えさせることに重点を置いた方がよい？
→単元全体を見通し、どこに指導の重点を置くか、単元構想の工夫の必要性を感じた。

<6年国語「時計の時間と心の時間」宇津木先生>



- 文章全体の構造と内容の把握等、文章を読むプロセスに着目した学習にチャレンジすることができた。
- これまでの学習を確認する際、学習の記録をまとめた模造紙（つなぎ教材）が有効であった。
- 気付いたこと等をノートに書く（個別の課題解決）→全体での意見交流→本時のまとめと振り返り、という流れの中で、追加・変化・強化を意識させることができた。
- 文章全体の構造を捉えて要旨を把握することが難しい児童に、どのように理解させていくか。

☆いまだに国語の指導が（も）苦手なので、とても参考になりました。ありがとうございました。国語は特に単元を見通した指導が大切になってきますね。私も、より意識していきたいと思います。（文責：山崎）

